



2024年12月期 決算補足説明資料

2025年2月6日

2024年12月期 連結業績



単位:百万円

	2023	2024	増減	増減率
売上高	26,413	33,287	+6,874	+26.0%
営業利益	5,296	7,659	+2,362	+44.6%
当期純利益	3,672	5,071	+1,399	+38.1%

ヨウ素及び天然ガス事業

- ヨウ素製品の販売数量は販売先における製品在庫調整等の影響を受け前期を下回る
- ヨウ素国際市況は堅調に推移
- 円安による影響もあり前期比増収増益

金属化合物事業

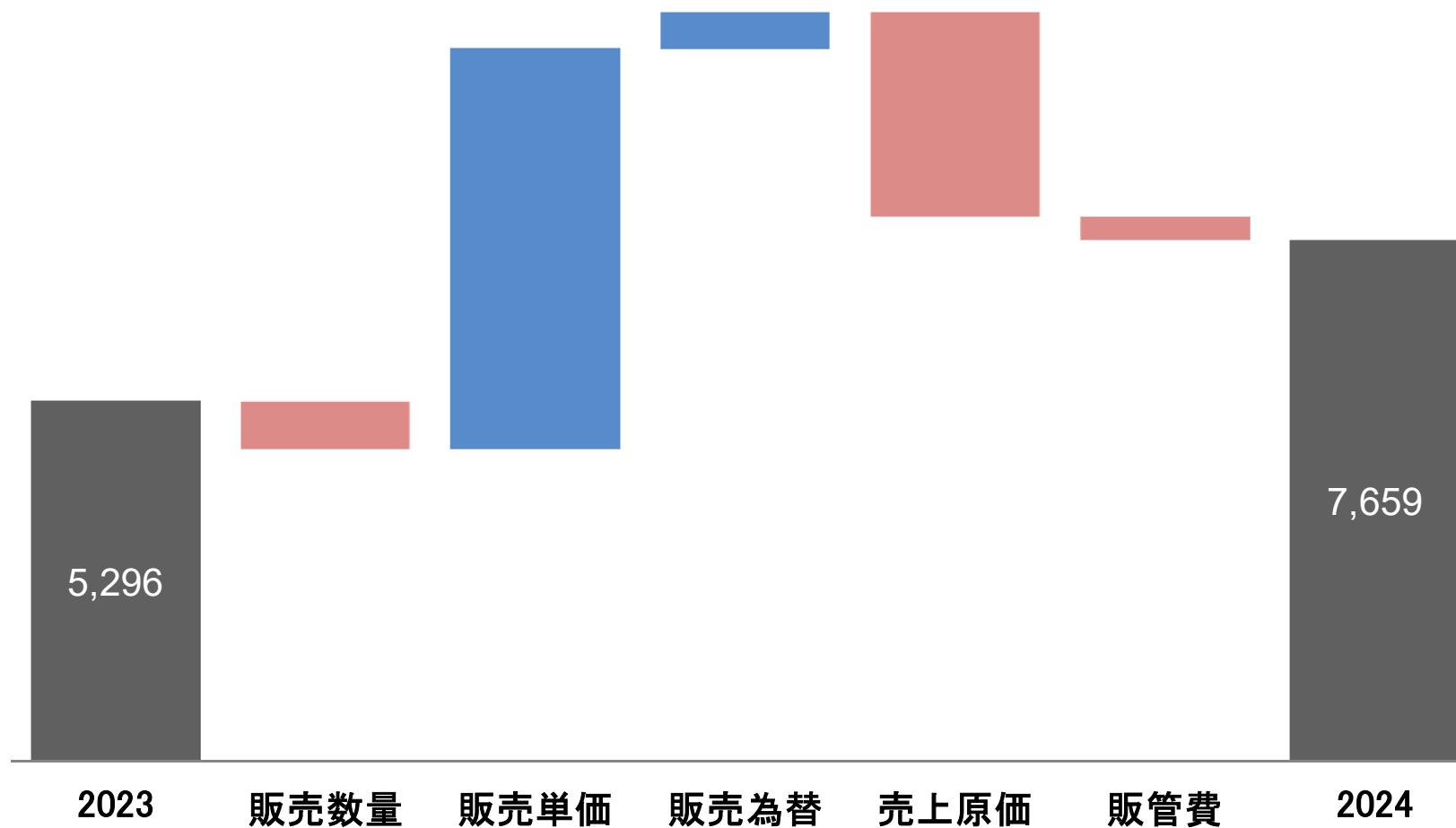
- 塩化ニッケルの販売数量は需要回復により前期を上回る
- 金属相場の下落による販売価格の下落等により、営業損失の計上

営業利益 増減要因分析



営業利益 前年対比 +2,362百万円

単位:百万円



2025年12月期 業績予想



単位:百万円

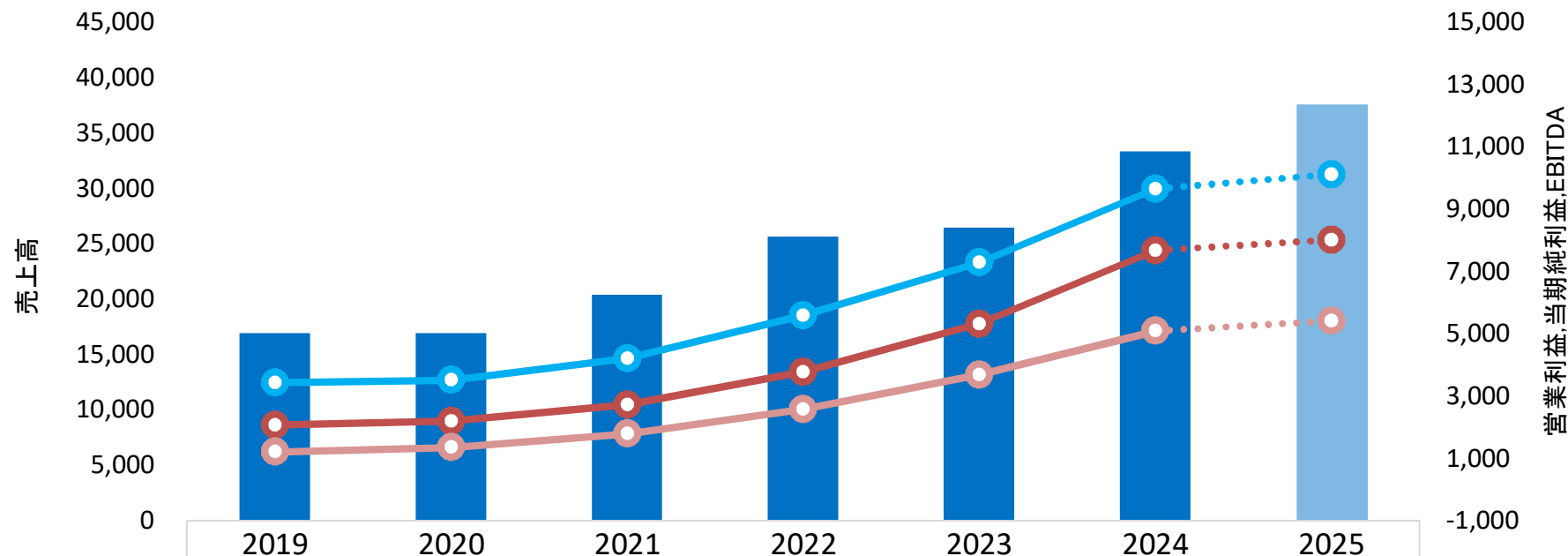
	2024	2025	増減	増減率
売上高	33,287	37,500	+4,212	+12.7%
営業利益	7,659	8,000	+340	+4.4%
当期純利益	5,071	5,400	+328	+6.5%

- ヨウ素の国際市況は引き続き堅調に推移
- ヨウ素製品の販売数量は、主要な用途・販売先ごとに増減はあるものの全体としては前期比で増加
- 金属化合物事業は、2024年に回復した塩化ニッケルの販売数量が安定的に推移
- 原燃材料価格の上昇も見込むが、上記増収要因等により増益

業績推移



単位: 百万円



	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
■ 売上高	16,854	16,859	20,354	25,564	26,413	33,287	37,500
● 営業利益	2,057	2,185	2,709	3,756	5,296	7,659	8,000
● 当期純利益	1,191	1,343	1,773	2,562	3,672	5,071	5,400
● EBITDA	3,414	3,497	4,198	5,568	7,267	9,634	10,100
減価償却費	1,356	1,311	1,489	1,812	1,970	1,975	2,100
設備投資	2,066	2,528	3,230	2,048	2,031	2,855	4,000
営業利益率	12.2%	13.0%	13.3%	14.7%	20.1%	23.0%	21.3%
ROE	4.9%	5.3%	6.7%	9.1%	12.0%	15.0%	14.5%
JPY/USD	109.1	106.8	109.9	131.6	140.7	151.7	140.0

ヨウ素及び天然ガス事業

ヨウ素

- 中長期的に、世界の間層人口の増加、発展途上国を中心とした経済成長等により、医療用途を中心に成長を見込む

天然ガス

- 天然ガスは化石燃料の中では比較的温室効果ガスの排出が少なく、貴重な国内の地産地消のエネルギー資源として重要な役割を果たすことから、当面は堅調な需要を見込む

金属化合物事業

- 主力製品の塩化ニッケルは、積層セラミックキャパシタ(MLCC)の素材として使用されており、今後の需要は、電子回路の高集積化による電動化、自動運転化の車載用途、通信用途が拡大することから、大きな成長を期待する

対処すべき課題 1/2



ヨウ素及び天然ガス事業

➤ 安全安定操業を最優先

既存設備の維持・更新を積極的に実施し
防災体制を強化。お客様にご安心いただける
供給体制を盤石に

➤ 新規坑井の開発を継続

既存坑井の生産減退を補うとともに供給能力の
拡大を目指す

➤ 限られた天然資源の有効活用

常に最善の製造プロセスを目指し高効率化を図るとともにリサイクルの向上に
努め、投資に伴う製造コストの上昇を圧縮

➤ カーボンネットゼロ社会実現への貢献

製造プロセスの高効率化の取り組みにおいて、省エネルギー化へ一段と注力



ヨウ素生産設備:ブローイングアウト塔

金属化合物事業

- MLCC向け製品の需要拡大に的確にタイミングを合わせ、生産体制を強化
- お客様と連携し一層のコストダウンを図る



MLCC向け製品: 塩化ニッケル

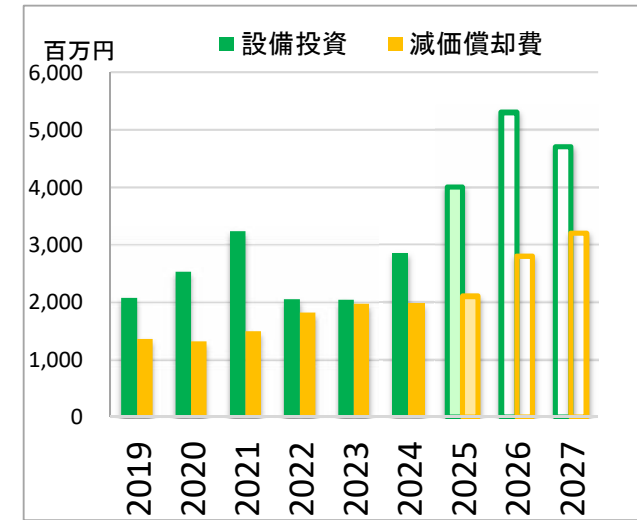
研究開発

- 当社の販売は特定用途の需要に依存するところが大きく、中長期的に安定成長が見込まれるものの、大幅な技術革新により需要が大きく変化することも考えられる。そのため、新商品開発及び新規事業の創出が急務
- 社内の資源を活用するだけでなく、大学の研究機関との産学連携や外部研究機関と積極的に提携し開発、創出のスピードを上げる

- **設備投資**

コンスタントな需要増加に支えられ、事業全体の市場規模は年々拡大。この事業環境を活かし、引き続き積極的な設備投資を行う。

2025年～2027年の3年間で100億円超の設備投資を計画。新規坑井開発を加速すると共に、安全安定操業に必要な維持更新、プラント効率化等に資金を投じる



2019年～2024年：実績、2025年：予想
2026年～2027年：金額イメージ

- **株主還元**

安定配当を基本とし、業績・資金需要等を総合的に勘案し株主の皆様への還元を行う

- **手元資金**

事業を営む地域、取引先、従業員等、ステークホルダーへの責任を果たす観点から、自然災害への備えのための手元資金を保有する

- 資本効率の指標であるROEを継続採用するとともに、中期計画の積極的投資継続を踏まえ、キャッシュ・フローをより重視し以下の通り設定

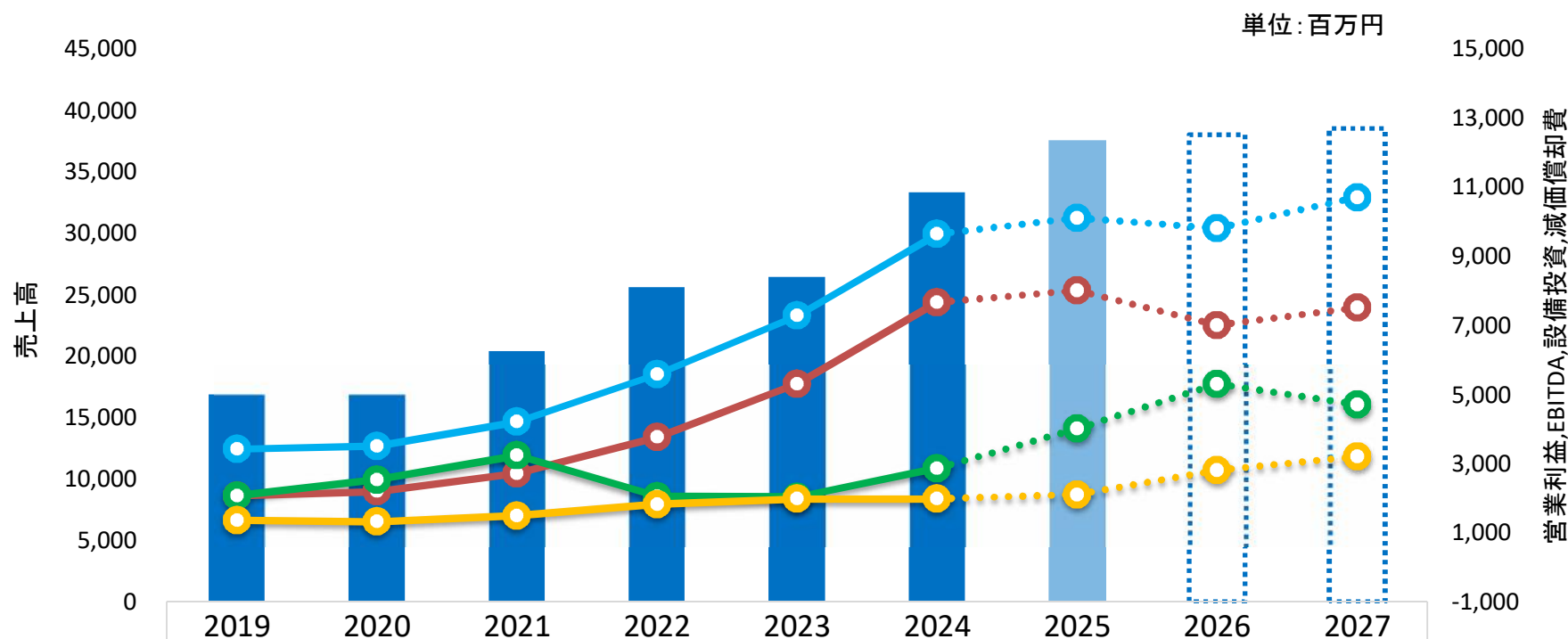
財務目標(2024年まで)		2024年12月期実績
EBITDA	70億円以上	96.3億円
ROE	6%以上を維持し、中期目標として安定的に10%以上	15.0%

- 2024年12月期までの達成状況を勘案し、より高い目標に挑戦する為、2025年以降の経営目標を変更

財務目標(2025年以降)	
EBITDA	70億円以上
ROE	中期目標として安定的に10%以上

- 継続的かつ効率的なサステナビリティ経営及び資本コストや株価を意識した経営を目指し、株主の皆様のご期待にお応えし、安定的に成長を図る

今後3年間の業績イメージ



	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
■ 売上高	16,854	16,859	20,354	25,564	26,413	33,287	37,500		
● 営業利益	2,057	2,185	2,709	3,756	5,296	7,659	8,000		
○ EBITDA	3,414	3,497	4,198	5,568	7,267	9,634	10,100		
● 設備投資	2,066	2,528	3,230	2,048	2,031	2,855	4,000		
○ 減価償却費	1,356	1,311	1,489	1,812	1,970	1,975	2,100		
営業利益率	12.2%	13.0%	13.3%	14.7%	20.1%	23.0%	21.3%		
ROE	4.9%	5.3%	6.7%	9.1%	12.0%	15.0%	14.5%		

2019年～2024年:実績、2025年:業績予想、2026年～2027年:業績イメージ

将来予測に関するご注意事項



本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。